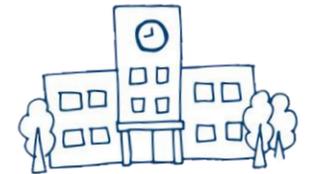


【添付資料3】

(港中学校・築港中学校 学校適正配置検討会議)

(参考) 港区の歴史と 町名等について

～ 新しい中学校の校名案の募集にあたって～



▲海岸線のうつりかわり (続大阪平野発達史により作図)

<港区HP: みなと物語 <https://www.city.osaka.lg.jp/minato/page/0000160768.html> >

大阪市教育委員会事務局 港区教育担当
大阪市港区役所 協働まちづくり推進課

港区の歴史 ～はじまり～

わたしたちの町、港区は、約1000年前までは、海の中でした。

やがて、淀川（旧淀川）の上流から運ばれてきた土砂が少しずつ堆積し、海岸線がうつり変わるとともに、沼地や小さな島ができていきました。

今の港区のあたりに人が住みはじめるのは、江戸時代の中ごろに土地の開拓が進んでからです。

江戸時代の初めごろまではまだ、沼やあし原が広がるだけで、人は住んでいなかったようです。



港区の歴史は、340年ほど前の1684年2月、河村瑞賢によって、安治川が開削※されてから始まります。

（※九条島に川を掘って、水を海にまっすぐ流す工事を行った。）

その後、新田※の開発が奨励され、約200年の年月をかけ、ほぼ現在の港区の原形ができあがりました。

（※荒れた土地や沼地を埋め立てたりして耕し、新しく田畑にした土地）



港区の歴史 ～江戸時代後期～

江戸時代後期～1865年（慶応元年）頃～



港区の町名のほとんどが、江戸時代中期から始まった新田開発に由来しています。

この新田開発は、裕福な町人の投資にまかされ、開拓者の名前や屋号がつけられました。

市岡・前田屋・池山・
木屋・湊屋・石田・
田中・池田・八幡屋・
北福崎・南福崎（柴屋）

<港区HP: 港区たんけん手帳 p10>

[大阪市港区:うちのまち、再発見!港区たんけん手帳](#)

(…>港区のまち魅力>港区をもっと知る)

osaka.lg.jp

慶應改正大阪細見全図

(国際日本文化研究センター所蔵) より

港区の歴史 ～明治時代～

～1900年（明治33年）頃の港区～



<港区HP掲載分より>
明治時代の市岡新田の様子 大阪城天守閣蔵

道のように見えるのは、
ほとんどが水路でした。

<港区HP掲載分より>

大阪市港区:1902(明治35)年 境川運河
完成 (…>歴史年表>近世～明治～大正)
(osaka.lg.jp)

明治33年大阪市地図 山田昌次様提供

港区の歴史 ～昭和（戦前）～

～1936年（昭和11年）頃の港区（西部地域のみ）～

明治末期から大正・昭和にかけて大阪港が大きく発展していくに従い、人口も急速に増加しました。

港区は1925年（大正14年）4月に誕生し（人口約28万人）、1943年（昭和18年）に現在と同じ区域になりました（人口約27万人）



平成15年 港区役所発行「みなと 今と昔」より
（昭和11年11月5日発行：最新港区地図）

港区の町名等 ～今と昔～ 1/6



【港中学校・築港中学校の通学区域を抜粋】 ※あいうえお順

平成15年 港区役所発行
「みなと 今と昔」より引用

かな	漢字	説明
いけじま	池島	<p>〔近代〕 池島町 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～3丁目がある。もとは港区新池田町の一部。この地は三十軒堀川、八幡屋運河・新池田井路で三方を囲まれて島をつくっており、その中央に大きな池があったことに町名は由来する。</p> <p>昭和43年池島1～3丁目・三先1～2丁目の各一部となる。</p> <p>〔近代〕 池島 昭和43年～現在の港区の町名。1～3丁目がある。もとは池島町1～3丁目・入舟町1～5丁目・新池田町2丁目・八幡屋元町1丁目・夕風町3丁目の各一部。</p>
いちじょうどおり	一条通 (～八条通)	<p>〔近代〕 明治40年～昭和43年の町名。1～2丁目がある。はじめ西区、大正14年から港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。明治43年天保町の一部を編入。昭和43年築港3～4丁目、海岸通1丁目の各一部となる。</p> <p>「これら築港方面の各町は築港計画による埋立事業として明治31年以降大正年代にかけて造成され、新たに設定を見た町名である。」「一条通以下八条通までの各町は西の九条通に対して名付けられた」(港区誌)</p>
いりふねちょう	入舟町	<p>〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～5丁目がある。もとは港区新池田町の一部。町名は、もとの地が三十間堀川の河口にのぞみ、舟の出入が頻繁であったことに由来する。昭和43年池島1～3丁目・八幡屋1～3丁目の各一部となる。</p>
かいがんどおり	海岸通	<p>〔近代〕 昭和43年～現在の港区の町名。1～4丁目がある。もとは港区南海岸通1～3丁目と北海岸通・出崎町3丁目・六条通3丁目・七条通3丁目・八条通3丁目・新福崎町1丁目の各一部。</p>
かわなみむら	川南村	<p>〔近代〕 明治22年～30年の西成郡の自治体名。津守新田・難波島町・中口新田・今木新田・千島新田・南恩加島新田・平尾新田・炭屋新田・泉尾新田・小林新田・岡田新田・北恩加島新田・千歳新田・石田新田・田中新田・木屋新田・湊屋新田・八幡屋新田・市岡新田・池山新田・前田屋新田・池田新田・北福崎新田・南福崎新田が合併して成立。旧村名を継承した24大字を編成。天保町との組合役場を市岡新田に設置。村名は安治川の南に位置することによる。明治22年の人口7,798(西成郡史)。同30年津守新田を除く、木津川以西の23大字は大阪市西区の一部となり、川南を冠称して同区の大字に継承。津守新田は自治体を形成。</p>

港区の町名等 ～今と昔～ 2/6



【港中学校・築港中学校の通学区域を抜粋】 ※あいうえお順

平成15年 港区役所発行
「みなと 今と昔」より引用

かな	漢字	説明
きたかいがんどおり	北海岸通	〔近代〕 大正9年～昭和43年の町名。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。西区内大阪湾埋立地に起立。昭和43年築港3丁目・海岸通1～4丁目の各一部となる。
きたやはたやちょう	北八幡屋町	〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～3丁目がある。もとは港区八幡屋町の一部。昭和43年港晴5丁目の一部となる。
こうせい	港晴	〔近代〕 昭和43年～現在の港区の町名。1～5丁目がある。もとは港区八幡屋新道と八幡屋浮島町1～2丁目・八幡屋宝町1～3丁目・八幡屋元町1～3丁目・南八幡屋町1～2丁目・八幡屋松ノ町2丁目・八幡屋雲井町2丁目・八幡屋大通1～3丁目・北八幡屋町2～3丁目・八幡屋中通2～3丁目・二条通1丁目・三条通1丁目・四条通1丁目・六条通1～2丁目・七条通1～2丁目の各一部。
ごじょうどおり	五条通	〔近代〕 明治40年～昭和43年の町名。1～3丁目がある。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。大正4年一部が六条通1～3丁目となり、同町および四条通1～4丁目の各一部を編入。昭和43年築港1～2丁目の各一部となる。
さんじゅっけんぼりがわ	三十間堀川	港区福崎1～3丁目の臨海地区を流れる運河。延長約600m。天保山運河に連絡して尻無川と安治川に通じる。文政・天保年間の開削といわれ、もとは三樋堀といったが、幅が30間あったところから三十間堀と呼ばれるようになった。 現在、安治川などの内港計画で拡幅され、沿岸は造船所・冷蔵倉庫などが建つ地域となっている。
さんじょうどおり	三条通	〔近代〕 明治40年～昭和43年の町名。1～4丁目がある。はじめ西区、大正14年 から港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。明治43年天保町の一部を編入し、大正4年一部が四条通1～4丁目となり、同町の一部を編入。昭和43年築港1～4丁目、港晴2、5丁目の各一部となる。
しじょうどおり	四条通	〔近代〕 明治40年～昭和43年の町名。1～4丁目がある。はじめ西区、大正14年から港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。明治43年天保町の一部を編入し、大正4年一部が三条通1～4丁目・五条通1～3丁目・六条通1～3丁目となり、六条通1～3丁目・三条通1～4丁目の各一部を編入。昭和43年築港1～2丁目・港晴2丁目の各一部となる。

港区の町名等 ～今と昔～ 3/6



【港中学校・築港中学校の通学区域を抜粋】 ※あいうえお順

平成15年 港区役所発行
「みなと 今と昔」より引用

かな	漢字	説明
しちじょうどおり	七条通	〔近代〕 明治40年～昭和43年の町名。1～3丁目がある。はじめ西区、大正14年から港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。大正14年当町地先公有水面埋立地を編入。昭和43年八幡屋3丁目・港晴2丁目・海岸通3丁目の各一部となる。
しんいけだちょう	新池田町	〔近代〕 明治33年～昭和43年の町名。大正14年からは1～2丁目がある。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。もとは西区川南大字池田と川南大字市岡の一部。明治33年の町名設定の際、大阪府北部の池田町（現池田市）との混同を避けるために新池田町に改めた。大正14年一部が夕風1～3丁目・八幡屋元町1～3丁目・三先町1～5丁目・池島町1～3丁目・入舟町1～5丁目となり、田中町の一部を編入。昭和7年一部が夕風町1～3丁目となり、同町の一部を編入、同43年池島1丁目 三先1～2丁目の各一部となる。
ちっこう	築港	〔近代〕 昭和43年～現在の港区の町名。1～4丁目がある。もとは港区一条通1～2丁目・五条通1～3丁目と二条通2～4丁目・三条通2～4丁目・四条通2～4丁目・北海岸通・天保町の各一部。
でさきちょう	出崎町	〔近代〕 明治40年～昭和43年の港区の町名。明治43年からは1～3丁目がある。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。明治43年および大正8年に築港埋立地を編入。大正4年八条通1～3丁目の一部を編入。昭和43年八幡屋4丁目・海岸通3丁目の各一部となる。
てんぼうざん	天保山	目標(めじるし) 山ともいう。港区築港3丁目にかつて存在した小丘。天保2年、大坂町奉行新見正路によって安治川の浚渫が行われ、延べ10万1,250人余の労働力をつぎこんで天保3年12月に完了。この時、浚渫の土砂を積み上げて安治川河口部に長さ約200mの防波堤が築かれ、天保山と呼ばれた。当時の規模は高さ約20m、長径約200mほどであり、亀甲状の形態を示すものであった。 天保山は、大坂町奉行の直轄地とし、大坂三郷に貸し付けられ、三郷は年番をもって目印山番所を置いた。その後、灯明を置き船舶入港の標識としたが、安政元年、ロシア軍艦の到来に伴い一時砲台が築かれた。しかし、この砲台も明治維新後に撤去され、現在は天保山公園となっている。天保山の北に建設された棧橋は、かつて別府および高松航路の客船の発着所としてにぎわった。

港区の町名等 ～今と昔～ 4/6



【港中学校・築港中学校の通学区域を抜粋】 ※あいうえお順

平成15年 港区役所発行
「みなと 今と昔」より引用

かな	漢字	説明
てんぼうざんうんが	天保山運河	大阪市港区西部を南北に貫く運河。大阪港を構成する運河の一つ。延長約2.1km・幅員73～120m・水深2.3～4m。北は安治川、南は尻無川に連絡する。また、途中で三十間堀川と交差し、連絡する。明治30年からの大阪港第一次修築工事で、背後の埋立地の連絡水路として開削がすすめられた運河の一つ。八幡屋・池田・北福崎の各新田と築港埋立地の間に開削され、大正6年5月に完成した。当時の幅員は45.5m。昭和23年から戦災復興計画の一環として、静波橋（港区築港1丁目）～新福崎橋（港区海岸通4丁目）間の約1kmを拡幅。その後、東岸を中心に荷揚場の整備、上屋の建設、一～五号荷役栈橋の建設をはじめ、同31年には貨物線の国鉄大阪東港線が東岸沿いに開通するなど、小型船の通行・荷揚場・船溜りの機能が充実した。また、運河の北端に港大橋（昭和49年開通）の巨大な螺旋式ランプウエーが運河を覆うようにまたぎ、独特の景観をつくっている。運河北端の西岸に、天保年間の安治川浚渫の際の浚渫土を盛り上げ、港の目印となった天保山（7.1m）があり、当運河の名称の由来となった。
てんぼうちょう	天保町	安治川河口左岸に位置する。当地はもとは牛ヶ瀬と通称されていた地で、天保元年に行われた安治川浚渫土砂を堆積し、廻船入津の目標となる目標山（天保山）を築いたのが開発の始まりである。開発後大坂町奉行の支配地となり、明治元年には大阪府の管轄に入り、同4年天保町となった。 [近代] 天保町 明治4～22年の町名。西成郡のうち。明治9年の人口375。同22年市制町村制施行により自治体を形成。 [近代] 天保町 明治22～30年の西成郡の自治体名。大字は編成せず。明治30年大阪市西区天保町となる。 [近代] 天保町 明治30年～昭和43年の町名。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。明治40年、八幡屋町地先地の大阪湾築港埋立地を編入。同43年一部が一条通1～2丁目・二条通1～4丁目・三条通1～4丁目となる。昭和43年築港3丁目の一部となる。他は戦後の安治川拡幅工事により水没。天保山は地盤沈下などで平地化し、昭和42年天保山公園となった。
にじょうどおり	二条通	[近代] 明治40年～昭和43年の町名。1～4丁目がある。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。明治43年天保町の一部を編入。昭和43年港晴5丁目・築港3～4丁目の各一部となる。

港区の町名等 ～今と昔～ 5/6



【港中学校・築港中学校の通学区域を抜粋】 ※あいうえお順

平成15年 港区役所発行
「みなと 今と昔」より引用

かな	漢字	説明
はちじょうどおり	八条通	[近代] 明治40年～昭和43年の町名。1～3丁目がある。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。大正4年一部が出崎町1～3丁目となる。同14年当町地先公有水面埋立地を編入。昭和43年八幡屋3～4丁目・海岸通3丁目の各一部となる。
みなみかいがんどおり	南海岸通	[近代] 大正9年～昭和43年の町名。1～3丁目がある。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。西区内大阪湾築港埋立地に起立。昭和2年公有水面埋立地編入。同11年当町地先埋立地編入。同43年築港1～2丁目・海岸通1～4丁目の各一部となる。
みなみやはたやちょう	南八幡屋町	[近代] 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～2丁目がある。もとは港区八幡屋町・田中町の各一部。昭和43年港晴3～5丁目・石田3丁目の各一部となる。
やはたや	八幡屋	<p>安治川最末流左岸に位置する。地名は、開発者の屋号にちなむ。</p> <p>[近世] 八幡屋新田 江戸期～明治22年の村名。摂津国西成郡のうち。文政12年唐物町の八幡屋忠兵衛が開発して成立。幕府領。村高は、「天保郷帳」166石余、「旧高旧領」176石余。幕末期の慶応改正大坂細見全図に記載されている。天保10年当時の地主は内平野町の米屋長吉(大坂湊口新田細見図) 明治2年大阪府に所属。同9年の人口189。同22年川南村の大字となる。</p> <p>[近代] 八幡屋新田 明治22～30年の川南村の大字名。明治24年の戸数41、男130人、女141人。幅員は東西8町・南北9町、船舶50(徴発物件一覧表)。同30年西区川南大字八幡屋となる。</p> <p>[近代] 八幡屋 明治30～33年の西区の大字名。川南を冠称。明治33年八幡屋町となる。</p> <p>[近代] 八幡屋町 明治33年～昭和43年の町名。大正14年からは1～3丁目がある。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。もとは川南大字八幡屋と川南大字田中の一部。大正12年第六回極東選手権大会開催を機にテニスコート・水泳場などもある市立運動場が創設された。同14年一部が夕凧町1～3丁目・八幡屋元町1～3丁目・八幡屋宝町1～4丁目・八幡屋亀町1～2丁目・八幡屋浮島町1～2丁目・西田中町1～5丁目・八幡屋松ノ町1～2丁目・八幡屋雲井町1～2丁目・八幡屋錦町・南八幡屋町1～2丁目・田中元町1～5丁目・八幡屋大通1～3丁目・北八幡屋町1～3丁目・八幡屋中通1～3丁目・八幡屋新道となる。昭和7年一部が八幡屋亀町1～2丁目となり、同町の一部を編入。戦後の安治川拡幅工事により水没。</p> <p>[近代] 八幡屋 昭和43年～現在の港区の町名。1～4丁目がある。もとは八幡屋亀町1～2丁目と八幡屋元町1～2丁目・八幡屋宝町1～2丁目・八幡屋浮島町1～2丁目・入舟町1～4丁目・七条通1～2丁目・八条通1～2丁目・出崎町1～2丁目の各一部。</p>

港区の町名等 ～今と昔～ 6/6



【港中学校・築港中学校の通学区域を抜粋】 ※あいうえお順

平成15年 港区役所発行
「みなと 今と昔」より引用

かな	漢字	説明
やはたやうきしま ちょう	八幡屋浮島 町	〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～2丁目がある。もとは港区八幡屋町の一部。町名は浮島橋に通ずる道路があることにより名付けられた。昭和43年八幡屋1～3丁目・港晴1～2丁目の各一部となる。
やはたやおおどおり	八幡屋大通	〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～3丁目がある。もとは港区八幡屋町・田中町の各一部。町名は広い路面電車の道に面していることに由来する。昭和43年港晴3～5丁目、石田3丁目の各一部となる。
やはたやかめまち	八幡屋亀町	〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～2丁目がある。もとは港区八幡屋町の一部。町名は新設のとき、付称の「亀町」は、大正14年の町域分割による町名新設に際し、奈良時代の年号である宝亀を、一字ずつ隣接の宝町と分け佳名として名付けられた。昭和7年一部が八幡屋町1～3丁目となり、同町の一部を編入。同43年より八幡屋2～3丁目の一部となる。
やはたやしんみち	八幡屋新道	〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。もとは港区八幡屋町の一部。町名は 九条新道・梅田新道と同じく新興商店街の意味で名付けられた。昭和43年港晴4～5丁目の一部となる。
やはたやたからまち	八幡屋宝町	〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～4丁目がある。もとは港区八幡屋町の一部。町名は新設のとき佳名として名付けられた。昭和43年八幡屋1丁目・港晴1～2丁目の各一部となる。
やはたやなかどおり	八幡屋中通	〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～3丁目がある。もとは港区八幡屋町の一部。昭和43年港晴5丁目の一部となる。他は安治川の拡幅工事により水没。
やはたやもとまち	八幡屋元町	〔近代〕 大正14年～昭和43年の港区の町名。1～3丁目がある。もとは港区八幡屋町・新池田町の各一部。昭和43年八幡屋1丁目・池島1丁目・港晴1～5丁目・田中3丁目の各一部となる。
ろくじょうどおり	六条通	〔近代〕 明治40年～昭和43年の町名。1～3丁目がある。はじめ西区、大正14年からは港区の町名。大阪湾築港埋立地に起立。大正4年一部が四条通1～4丁目・五条通1～3丁目となり、四条通1～4丁目・五条通1～3丁目の各一部を編入。同14年当町地先公有水面埋立地を編入。昭和43年港晴2丁目・海岸通3丁目の各一部となる。